日本篆刻家協会会報

第4号　平成22年2月20日発行
発行：日本篆刻家協会
563-0032 池田市石橋2-2-10-203
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853
E-mail : info@n-tenkoku.jp

新年度がスタート

最初の行事は第1回理事会で、1月17日に48人の理事以上の役員が出席し、平成22年度の日本篆刻家協会運営の方向が確認された。引き続き、全国各地からの会員が一堂に会しての新年会が、大阪市中央区の錦城閣で開催され208人が参加した。

（上）井谷副理事長の音頭で乾杯
（下）正副理事長、代表理事から提供された作品等福引で当たった作品を披露

全国各地の会員が一堂に会して和気藹々と

新年のご挨拶

理事長 山下方亭

謹んで新年のご祝辞を申しあげます。

創立二十五周年を迎えた当協会は昨年五月二十四日、記念祝賀の式典を挙行しました。

その記念事業の一環として、会員・役員が所蔵している「刻印」を「日中名家刻印選」として記念出版し、在籍の会員に贈呈しました。会員・役員が永年蒐集に努め、編集したこの印譜は当協会の結晶です。また、在籍二十五年の会員並びに八十歳以上の会員の顕彰を行いました。夏の中央研究会では島根大学教授の福田哲之先生による「『説文解字』研究の新展開」と題して記念講演を行いました。これら一連の記念行事が協会役員の総意によって民主的に開催されたことはまことに喜ばしいことであります。

一昨年行われた中国篆刻芸術院の「金石永寿－中国寿山石芸術篆刻展－」と題する鈕刻印材による寿山石展が北京で開催された後、芸術院の初の海外交流展として二十四回日本篆刻家協会展に共催して大阪で展示されたことは会員皆様の記憶に新しいところです。昨秋は中国芸術研究院（院長：王文章文化副部長）篆刻芸術院（韓天衡院長）と共催して、「江山多嬌－慶祝中華人民共和国建国六十周年篆刻芸術精品展－」に併せて当協会の役員作品による「中日篆刻芸術展」を北京の恭王府で開催しました。開幕式後の祝賀会に於いて、韓天衡院長から日中韓による篆刻交流展が提案され、三国の持回り展の実現が期待されるところです。この交流展の訪中団は承徳－北京を観光しました。

新年会に先立ち理事会

本年は、二月の総会時に落語家、林家染二さんに篆刻をテーマとしたお話を一席お願いしております。五月の二十六回展の特別陳列として西泠印社の創始者の一人、丁仁の作品の陳列を決定すると共に、本展の授賞式の折「丁家の人々」（仮称）と題する丁如霞氏の講演を予定しております。八月の中央研究会の特別講演では、外部から小田玉瑛氏による「シルクロードの印章」（仮称）を予定しているほか、来春出版予定の「近代中国楹聯集」（仮称）の刊行を記念して内部講師・井谷五雲副理事長による「対聯について」（仮称）を予定するなど当協会の年間行事は多彩であります。

今年も当協会は会員の為に印人として総合的な教養を高めることを目的として盛りだくさんの企画を予定しています。いずれにしましても会員の皆様の積極的な参加がなければ企画も意味をなさず、多数の会員皆様のご協力を期待いたします。

日本篆刻家協会 創立二十五周年記念 特別講演会を開催

昨年、創立二十五周年を迎えた当協会は五月二十四日、記念祝賀の式典を挙行し、種々の記念事業を実施した。その記念事業の一環として八月九日午後、中央研究会のプログラムの中で、島根大学教授の福田哲之先生による「『説文解字』研究の新展開」と題する記念講演会を開催した。福田先生はわが国の誇る新進気鋭の説文研究の第一人者で、最新の研究成果を披瀝する講演は、篆刻を深める上で欠かすことのできない教養を培うにも貴重な機会となった。

講演する島根大学教授福田哲之先生

講演スライドから

中央研究会

昨年に続いて本協会主催の第二回中央研究会が、八月八日から十日まで神戸市垂水区のシーサイドホテル舞子ビラ神戸で開催され、全国から一五四人が参加した。参加した会員から印象を含めた文を寄せていただいたので、報告に代えて掲載する。

八月八日から十日まで第二回日本篆刻家協会中央研究会に参加しました。

長い梅雨が明け夏本番、家族連れやカップルで賑わう電車の中、「付いていけなかったらどうしよう」と不安な気持ちでいっぱいでした。

午後一時半から山下先生のご挨拶、記念分刻作品「論語」の説明があり、その後二時半からは尾崎先生による「戦国古璽の研究」の講義が行われました。印の歴史や用途などとても興味深く拝聴させていただきました。また部屋の前方に陳列された古鉨の数々、その多彩さにただただ感動いたしました。

夕食後は、八時半から十一時半まで分刻作品の制作と採拓の時間です。分刻指導は三人の先生方が当たられ、自由に指導を受けることができました。普段、他の先生にご指導を仰ぐ機会などめったにないので新鮮で、またいろいろなお話もお伺いすることができ有意義でした。塼の採拓はとても人気があり長蛇の列でしたが、担当の方々のご指導の下、無事に採らせていただくことができました。

九日は午前中三つの教室に分かれての分科会が行われました。私は眞鍋井蛙先生の「印の見方について」という講義を受けましたが、章法と辺縁について時にはクイズも織り交ぜて、わかりやすくあっという間の二時間でした。

午後は島根大学教授福田哲之先生による「説文解字研究の新展開」という講演が行われました。説文研究の第一人者ということで最新の研究をお伺いすることができました。

夜の記念懇親夕食会はリラックスムードで、先生方の歌声も楽しかったです。

非常に中身の濃い充実した研究会でしたが、未熟な私は肝心の分刻作品を提出するまでに至らず、側款は帰宅してからの宿題となってしまいました。

参加するまでは不安と緊張でいっぱいでしたが、明石海峡大橋を望む絶好のロケーションの中思い出に残る三日間でした。同室の方々からも多くの事を学ばせていただきました。お世話になりました諸先生方、諸先輩方本当にありがとうございました。（随風會　荒川春翠）

戦国古璽の研究の講義にかかる展示

塼の採拓の実習

分刻作品制作のアドバイスを受ける

「戦国古璽の研究」の講義を行う尾崎副理事長

三つの教室に分かれての分科会

日中交流の篆刻芸術展を北京で開催

第二十五回日本篆刻展の役員作品による「中日篆刻芸術展」を、北京の恭王府で中国芸術研究院篆刻芸術院と共催して開催した。

メイン会場となっている恭王府嘉楽堂の中庭での開幕式（後方赤い幕内が除幕前の芸術柱）

一昨年北京で開催された中国篆刻芸術院の「金石永寿－中国寿山石芸術篆刻展」と題する展覧会が、芸術院の初の海外交流展として二十四回日本篆刻家協会展に共催して大阪で展示された。これを受け、昨秋は中国芸術研究院（院長：王文章文化副部長）篆刻芸術院（韓天衡院長）と共催して、「江山多嬌－慶祝中華人民共和国建国六十周年篆刻芸術精品展－」に併せて当協会の役員作品による「中日篆刻芸術展」を開催したもの。篆刻芸術精品展は、中華人民共和国建国六十周年を祝うと同時に、中国篆刻芸術の国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産登録を祝うものでもあり、出展者は中国芸術研究院中国篆刻芸術院研究員を中心に合計一一〇人参加。芸術院と当協会が共同で開催した中日篆刻芸術展も北京の恭王府内の安善堂で開催され、当協会役員六七人の作品が展示された。

今回の展覧会では、庭園式篆刻展という展示形式がとられた。会場となった恭王府は、現在中国国内で最も完全な状態で保存されている清朝の王府で、国の重点文物保護指定を受けている。篆刻を大自然の中に置き、王府の伝統建築や宮廷式庭園と融合させた今回の篆刻展示スタイルは、篆刻芸術の展覧会としてはまったく新しい試みとなっている。その一つが、嘉楽堂の中庭に建てられた八角柱「江山多嬌篆刻芸術柱」。八角柱のうち六面を使って中国を代表する作家の篆刻作品が埋め込まれている。

一〇月三一日開幕された篆刻芸術精品展・中日篆刻芸術展は一一月三〇日まで一カ月間開催された。

交流書会で日中韓シンガポール等の作家が順に揮毫

中日篆刻芸術展」の屋内会場

「江山多嬌篆刻芸術柱」

庭園式篆刻展という展示形式で屋内だけでなく屋外にも作品が並べられている

「中日篆刻芸術展」開催に日本篆刻家協会訪中団を派遣

日中交流の篆刻芸術展を北京で開催するのにあわせ、開幕式に参加のため訪中団を一〇月二八日から一一月一日まで北京市他に派遣した。

一〇月二八日

山下方亭理事長を団長、井谷五雲副理事長を副団長兼秘書長とする「日本篆刻家協会訪中団」計一九人は各地から午前八時三〇分関西空港に集合し、一一時前、日本航空便で出発、予定どおり現地時間一三時前北京首都国際空港に到着した。直ちに専用バスで一週間前に開通した高速道路経由河北省承徳市に向かい、途中万里の長城を遠望し、夕刻承徳市内へ、宿舎となる天宝假日酒店に到着する。

一〇月二九日

終日、清王朝が夏の御所を置いた避暑地である承徳市内を見学する。中国・チベット様式をあわせもつ寺院普寧寺見学の後、チベット・ラサのポタラ宮を模して建造された普陀宗乗之廟（小ポタラ宮）を訪れた。

チベット・ラサのポタラ宮を模して建造された普陀宗乗之廟（小ポタラ宮）

清朝の建物とわかる４種の文字の額

昼食後、一七九〇年完成の清朝「夏の離宮－避暑山荘」を訪れ、広大な山荘内を巡る。夕食は宮廷料理の満漢全席を堪能した。

一〇月三〇日

朝、承徳を発って昼前に北京に到着。四川料理の昼食後、午後は瑠璃廠、夕方王府井大飯店にチェックインする。夜は康銘大厦での中国芸術研究院主催の歓迎宴に臨む。

一〇月三一日

午前中は故宮博物院を訪問、ちょうど開催中の王献之から呉昌碩まで各時代を網羅する「故宮蔵歴代書画展」を見学。山東料理の昼食後、現代美術の殿堂今日美術館を訪れ、輪タクで胡同（フートン＝路地・横丁）を巡りながら会場の恭王府へ。夕刻から夜まで、開幕式、展覧会参観、交流書会、討論会、古典音楽・京劇・昆劇等を観賞しながらの夕食会と中国芸術研究院中国篆刻芸術院との交流行事が続く。

雪の降りしきる潘家園旧貨市場

午前中は故宮博物院見学

一一月一日

空港へ向かう前にと朝早くから、潘家園旧貨市場へ。今冬初めての寒波襲来で夜半から雪の降るのものともせず、皆元気に広い場内を回っていた。早めの昼食後、北京市内真っ白のめずらしい景色の中、バスは空港に到着しチェックインする。しかし、北京首都国際空港は除雪に追われ機能が麻痺状態となっていた。折り返しとなる到着便がスポットに入れないで、本団もゲート前で約三時間待たされることとなる。大幅に遅れたが日本航空便で二〇時前無事帰国、各自帰宅の途についた。

七月課題「独楽」

役員

米子人　杏葉　白遊　呉山　孝風

常任委員

静雲　明峯　无髯　幽泉　繁治

実秋　正歩　慶石　芝蘭　拓石

委員

平峰　晋作　群蛙　汀華　竹扇

紅絲　蒼洋　敏子　鐵生　翔雲

会員

秧香　華泉　敬子　翠汀　康生

隆峰　翠龍　沖玄　宝樹　芳泉

一般

桃苑　龍生　智子　碧翠　清光

顔了　泰久　豊　晃治　公明

八月課題「法二李」

役　員

聴芬　踏青　輝代　満喜　穆風

常任委員

立女　桂舟　素月　誠二　和香

恵水　希祐　彪　九郎　景雲

委　員

蘭翠　見聲　静山　汀華　亀石

芳桂　硯水　正陽　和代　羊碩

会　員

孝昌　憲石　義春　翠峰　祐輔

信子　育治　美久代　元南　信昭

一　般

豊　彌太彦　龍生　幸子　冬雲

晃治　光雄　桃苑　智子　公明

九月課題「游於藝」

役員

祥鳳　満喜　翠雨　米子人　孝風

常任委員

芝蘭　立女　桃園　希祐　明峯

学友　燕安　紅舟　拓川　静雲

委員

敏子　汀華　韶曄　正陽　瑞峰

融石　恵草　玉陵　敏之　恒夫

会員

宝樹　嘉信　水雲　明　信昭

玉峰　康生　功勝　唯文　遼華

一般

豊　顔了　秀雄　博康　清光

菰田　昭石　博　衛　智子

十月課題「談何容易」

役　員

聴芬

踏青

翠女

孝風

芳月

常任委員

九郁

壽江

彪

惠扇

九成

草露

蘇碩

睦苑

惠水

希祐

委　員

融石

容史子

和代

叢映

早知子

邦子

亮子

晋作

一系

碧峰

会　員

静二

游月

育治

一清

大

貴美子

隆

水雲

玉峰

美久代

一　般

公朗

顔了

基彦

修一

勝山

博

嫩碧

石舟

昭石

豊

十一月課題「宜有千万」

役員

聴芬

踏青

翠雨

輝代

翠女

常任委員

祥雲

蘇碩

立女

青桐

拓石

胡蝶

彪

芳雲

素月

魚仙

委員

早知子

汀華

晋作

碧泉

香華

玉峯

平峰

硯水

通敬

静山

会員

康風

誠三

外茂一

一清

大

典恵

啓子

雄山

敬次

郁夫

一般

龍生

隆志

博康

修一

勝山

英雄

景香

碧翠

菰田

公朗

十二月課題「庚寅」

役　員

董圃

克彦

容庸

杏葉

弘深

常任委員

優美子

繁治

立女

大雲

芝蘭

紅舟

静雲

美華

壽江

和香

委　員

早知子

叢映

白峰

平峰

青露

真澄

韶曄

和代

箕山

秀雄

会　員

久利江

芳泉

外茂一

小綽

忠義

玉峰

敬子

信昭

華泉

啓志

一　般

勝山

育治

碧翠

修一

鶴羽

泰久

公朗

光雄

博

彌太彦

月例作品出品者７月

役員

○遠藤米子人　○正和杏葉　○堤白遊　○田原呉山　○藤田孝風　高嶋満喜　高野弘深　南輝代　木村容庸　関踏青　重原祥雲　渡部芳月　中野桂鵬　石原雲木　関野羊越　畠穆風　山崎一雄　得永春水　稲葉竹葉　田澤翠雨　阿部祥廬　水巻游光　村田祥鳳　名倉克彦　原田恵苑　今村董圃　早川聴芬

常任委員

○上田静雲　○石亀明峯　○國井无髯　○湯瀬幽泉　○増田繁治　○大橋実秋　○坂正歩　○葭岡慶石　○亀井芝蘭　○長谷川拓石　田中九成　松田泰軒　樋口桃園　丸山蘇碩　多田学友　岡田桂舟　武田草露　荒崎浄仙　白尾芳雲　青黄彪　古瀬章石　宮本瑞邦　大庭景雲　福本青桐　森川恵扇

矢野亀山　宮井紅舟　松井翠香　各務紅泉　亀尾武彦　浅野祥雲　奥島艸丘　橋本碧峰　久野天山　桑木利一　大田豊　伊藤桃山　篠浦錦風　倉野看雨　今西九郎　内山楽水　三次松雲　吉田鏡水　藤原岳風　桃睦苑　田中壽江　瀧上紀翠　杉山錬二　千田耕翠　大槻直佑　丸田拓川　小谷征　小澤博石　村井松雨　瀧七郎　近藤胡蝶　太田恵水　竹内立女　芦野優美子　城下江曄　松田碧草　小泉廣津　河瀬魚仙　坂崎大雲　寄田龍神　稲田一穂　富山希祐　浅良朱華　庭田露舟　秋山名華　水野和香　丸山沙舟　井本敏子　木下芳秀　川西卯水　松岡惣雲　谷口彩雪　大内隆雲　岸村爽風　吉田宗里

古野燕安　杉山美華　藤縄尚子　劔田白峰　尾白正雄　浦本秀洞

委員

○松江平峰　○森原晋作　○田原群蛙　○岡上汀華　○稲垣竹扇　○荒川紅絲　○小堀蒼洋　○南敏子　○青木鐵生　○上田翔雲　関野山玉陵　谷啓子　管白峰　中西一系　野崎恒夫　筒井耕石　西山進　石川羊碩　西谷亀石　和田恵子　西口叢映　番定静山　大川鳳石　前田正陽　鍬守衣英　安西幸恵　高松亮子　木村真澄　大城容史子　今井朴仙　服部和代　杉原照楓　飯田通敬　中野桃華　竹村美智子　畑間青露　田山堅　立石見聲　今宮翠輝　茶本仙華　小谷敏之　山下直太　羽田野雪里　黒石仁　藤本蘇西　竹中朴　竹内霍山

横手幸雄　藤井徳三　湯浅榮一　武友早知子　若杉硯水　富山蘭翠　池田竹華　小嶋昌秋　平井涛峰　伊田香泉　稲葉桂峰　伏原準朗　榊原有光　松本春石　山内紫泉　松田高州　加藤臥牛　伊地美保子　筧芳桂　小林啓子　川栄玉峯　新井碧峰　岩田耕烟　滝口照影　笹倉瑞峰　谷川松雲　高城玲子　吉崎雲堂　松野碧泉　松嶋翠邨　小倉澤陽　市川桂水　中石象堂　濱口韶曄　笹倉柳石　松本弘碩　高岡祥鶴　宇於崎碧峯　榊原悠園　佐藤幸　北村斗舟　堀口秀雄　山口藤華　池田翠苑　宮越素翠　熊木信男　曾原希美　川野朱苑　野田邦子　小西青窓　團栗利之　森田時雄　田中翠泉　宮澤神竹　岩井映舟

宮野宗雄　原田園代　山田榮山　山崎芳園　鱇忠夫　国島康成　福島次郎　佐野哲舟　安田佳舟　永井箕山

会員

○前田秋香　○内藤華泉　○堀田敬子　○森本翠汀　○月森康生　○仲里隆峰　○佐藤翠龍　○高橋沖玄　○池谷宝樹　○安井芳泉　金内ヨウ子　松室絹代　山崎隆平　木村笙山　宮下英世　小嶋瑞碩　藤崎澄子　佐藤直美　大島光洋　青木雄山　松山嘉津子　小平隆志　小河水雲　山口勝義　金井明子　石原白蓉　川端春峰　富岡教行　木嶋幸子　藤本忠義　岡田郁夫　中園球恵　永井守　小幡青濤　小林邦夫　川久保明　駒見華山　佐野恵美子　中山孝之　刑部玉水　和田扇舟　吉三友　長沼梅風

渡會俊正　西岡貴美子　吉原愛璃　田辺清　永井孜黄　金子恵子　大井智枝　村手俊彦　土屋功勝　小林空歩　森静二　馬場穆風　滋野草翠　中島敬次　内木場八夫　酒向誼桂　眞壁石峰　川端隆一郎　三原大　高橋忠義　森井孝昌　中尾恵笙　森原宏司　荒木彬陽　松本倫子　真田雅好　荒井典恵　中村紀久　樫野美久代　立石雄二　橋本游月　長谷山墨石　松田仰風　津堅康風　小貫剛　生嶋晨空　葛西克己　加藤辰二　永田綾子　堂守唯文　桑島龍三　井関碧水　鈴木祐輔　鈴木誠三　永田乾石　高木啓志　宮崎外茂一　長浜英治　菱沼春水　杉林ひふみ　間宮慎　井上江洲　福本剛志　加藤清城　小林寅次郎

脇田喜久　青山正人　中井榮子　丸田岳僊　畑温子　舟山和雄　近藤酔念　植林和夫　小川憲石　杉木和子　鈴木翠峰　平川法禅　荻野蒼雲　粕川真人　笹井岳峯　矢吹一清　橘修一　木村行石　鈴木玉峰　鈴木龍蹊　高橋裕進　境山正甫　加藤敦美　清水信昭　岡田泰道　前田舫厓　磯村育治　伊藤嘉信　山内真波　鈴木宏慥　内匠俊夫　千田元南　田中穂積

一般

○須田桃苑　○吉岡龍生　○板屋智子　○國江碧翠　○森清光　○三井顔了　○原田泰久　○吉田豊　○国枝晃治　○石崎公明　神原彌太彦　伊藤博康　宮田菰田　山村千秋　早川昭石

月例作品出品者８月

役員

○早川聴芬　○関踏青　○南輝代　○高嶋満喜　○畠穆風　木村容庸　今村董圃　村田祥鳳　藤田孝風　山崎一雄　名倉克彦　重原祥雲　高野弘深　正和杏葉　服部九姚　阿部祥廬　原田恵苑　田原呉山　田澤翠雨　稲葉竹葉　中野桂鵬　渡部芳月　松本翠女　関野羊越　石原雲木　得永春水　堤白遊　水巻游光　遠藤米子人

常任委員

○竹内立女　○岡田桂舟　○杉本素月　○木村誠二　○水野和香　○太田恵水　○富山希祐　○青黄彪　○今西九郎　○大庭景雲　小澤博石　大橋実秋　増田繁治　藤縄尚子　吉田宗里　國井无髯　樋口桃園　奥島艸丘　荒崎浄仙　長谷川拓石　浅野祥雲　矢野亀山　多田学友

大田豊　近藤胡蝶　内山楽水　宮井紅舟　橋本碧峰　桃睦苑　藤原岳風　上田静雲　小泉廣津　湯瀬幽泉　松井翠香　桑木利一　瀧七郎　古野燕安　亀井芝蘭　小谷征　丸山蘇碩　尾白正雄　坂崎大雲　松岡惣雲　吉田鏡水　杉山錬二　村井松雨　松田泰軒　稲田一穂　井本敏子　大槻直佑　劔田白峰　丸山沙舟　田中壽江　田中九成　瀧上紀翠　杉山美華　宮本瑞邦　谷口彩雪　古瀬章石　城下江曄　松田碧草　芦野優美子　篠浦錦風　福本青桐　白尾芳雲　浦本秀洞　寄田龍神　武田草露　三次松雲　鈴木城山　岸村爽風　川西卯水　石亀明峯　庭田露舟　浅良朱華　亀尾武彦　花房浩佳　河瀬魚仙

千田耕翠　森川恵扇　各務紅泉　丸田拓川

委員

○富山蘭翠　○立石見聲　○番定静山　○岡上汀華　○西谷亀石　○筧芳桂　○若杉硯水　○前田正陽　○服部和代　○石川羊碩　松田高州　宮野宗雄　笹倉瑞峰　中西一系　稲葉桂峰　川野朱苑　山崎芳園　森田時雄　西口叢映　伊地美保子　野田邦子　小谷敏之　松野碧泉　鱇忠夫　谷啓子　鍬守衣英　森原晋作　大城容史子　藤本蘇西　高城玲子　宇於崎碧峯　川栄玉峯　原田園代　岩井映舟　関野山玉陵　飯田通敬　團栗利之　小堀蒼洋　北村斗舟　松嶋翠邨　菅白峰　小西青窓　中石象堂　松永平峰　畑間青露　武友早知子　松本弘碩　笹倉柳石　谷川松雲

熊木信男　南敏子　湯浅栄一　永井箕山　市川桂水　和田恵子　小嶋昌秋　今井朴仙　松浦典子　高松亮子　平井涛峰　羽田野雪里　荒川紅絲　西谷桜泉　新井碧峰　榊原悠園　宮澤神竹　池田竹華　吉崎雲堂　岩田耕烟　大川鳳石　高岡祥鶴　堀口秀雄　田原群蛙　宮越素翠　肥田俊雄　伏原準朗　小林啓子　曽原希美　山内紫泉　池田翠苑　山口藤華　田中翠景　山下直太　曽我雅峰　筒井耕石　城島繁実　小倉澤陽　茶本仙華　西山進　濱口韶曄　藤井徳三　安西幸恵　横手幸雄　上田翔雲　佐藤幸　安田佳舟　今宮翠輝　福島次郎　竹内霍山　杉江周作　伊田香泉　竹中朴　伊藤桃山　山本亮子

堤浮生　榊原有光　野崎恒夫　滝口照影　加藤臥牛　青木鐵生　松本春石　田山堅　国島康成　佐野哲舟

会員

○森井孝昌　○小川憲石　○大石義春　○鈴木翠峰　○鈴木祐輔　○磯村育治　○天海信子　○樫野美久代　○千田元南　○清水信昭　田辺清　吉原愛璃　岡田郁夫　西岡貴美子　佐藤直美　前田舫厓　森静二　鈴木智勝　葛西克己　小嶋瑞碩　平川法禪　土屋功勝　富岡教行　大井智枝　川久保明　伊藤嘉信　渡會俊正　植林和夫　田中良子　馬場穆風　森原宏司　生嶋晨空　木村笙山　青木雄山　山崎隆平　小林寅次郎　中井榮子　矢吹一清　笹井岳峯　畑温子　荒井典恵　永田綾子　眞壁石峰

石原白蓉　三原大　加藤辰二　前田秋香　和田扇舟　青山正人　高田博夫　間宮慎　永井守　酒向誼桂　小林空歩　大島光洋　月森康生　桑島龍三　脇田喜久　藤本忠義　橋本游月　安井芳泉　小平隆志　中尾恵笙　小貫剛　川端春峰　松田仰風　高橋沖玄　池谷宝樹　中山翔石　永井孜黄　滋野草翠　長谷山墨石　金井明子　立石雄二　西野克衛　小幡青濤　堂守唯文　田中穂積　山内真波　岡田泰道　井関碧水　藤田紅霞　藤崎澄子　津堅康風　内木場八夫　近藤酔念　森本翠汀　鈴木龍蹊　松室絹代　松山嘉津子　山村ひろみ　境山正甫　金内ヨウ子　荻野蒼雲　舟山和雄　中島敬次　長浜英治　前田秀雄

加藤清城　高橋忠義　鳴川遼華　堀田敬子　長沼梅風　中園球恵　内匠俊夫　杉木和子　小河水雲　中村紀久　宮崎外茂一　駒見華山　鈴木誠三　井上江洲　木村行石　永田乾石　仲里隆峰　高木啓志　荒木彬陽　丸田岳僊　吉三友　粕川真人　鈴木宏慥　福本剛志　小林邦夫　佐藤翠龍　川端隆一郎　金子恵子　松本倫子　刑部玉水　田中良子

一般

○吉田豊　○神原彌太彦　○吉岡龍生　○本嶋幸子　○安喰冬雲　○国枝晃治　○松本光雄　○須田桃苑　○板屋智子　○石崎公明　宮坂菰田　長谷部石舟　原田泰久　伊藤博康　山岸英雄　早川昭石　古田衛　高橋博　小竹基彦　川上嫩碧　國江碧翠

月例作品出品者９月

役員

○村田祥鳳　○高嶋満喜　○田澤翠雨　○遠藤米子人　○藤田孝風　早川聴芬　田原呉山　渡部芳月　高野弘深　今村董圃　関踏青　得永春水　石原雲木　阿部祥廬　名倉克彦　堤白遊　関野羊越　原田恵苑　稲葉竹葉　重原祥雲　畠穆風　水巻游光　南輝代　木村容庸　山崎一雄　正和杏葉

常任委員

○亀井芝蘭　○竹内立女　○樋口桃園　○富山希祐　○石亀明峯　○多田学友　○古野燕安　○宮井紅舟　○丸田拓川　○上田静雲　村井松雨　庭田露舟　木村誠二　今西九郎　田中九成　小澤博石　藤原岳風　杉本素月　久野天山　太田恵水　桃睦苑　寄田龍神　丸山沙舟　國井无髯　井本敏子

大橋実秋　瀧七郎　奥島艸丘　小谷征　大庭景雲　古瀬章石　長谷川拓石　白尾芳雲　武田草露　吉田宗里　劔田白峰　葭岡慶石　各務紅泉　谷口彩雪　大田豊　伊藤桃山　亀尾武彦　桑木利一　宮本瑞邦　瀧上紀翠　荒崎浄仙　杉山美華　丸山蘇碩　吉田鏡水　浦本秀洞　藤縄尚子　松田碧草　浅良朱華　花房浩佳　芦野優美子　大槻直佑　岡田桂舟　内山楽水　河瀬魚仙　千田耕翠　青黄彪　水野和香　倉野看雨　杉山錬二　篠浦錦風　松田泰軒　坂崎大雲　稲田一穂　矢野亀山　岸村爽風　松岡惣雲　田中壽江　川西卯水　橋本碧峰　福本青桐　小泉廣津　近藤胡蝶　鈴木城山　森川恵扇

尾白正雄　城下江曄　三次松雲

委員

○南敏子　○岡上汀華　○濱口韶曄　○前田正陽　○笹倉瑞峰　○吉田融石　○鈴木恵草　○関野山玉陵　○小谷敏之　○野崎恒夫　北村斗舟　中石象堂　平井涛峰　岩井映舟　青木鐵生　松永平峰　荒川紅絲　熊木信男　小西青窓　肥田俊雄　筒井耕石　羽田野雪里　藤井浩　武友早知子　稲葉桂峰　松田高州　曽原希美　湯浅榮一　西口叢映　山下直太　原田園代　中西一系　新井碧峰　小堀蒼洋　杉原照楓　竹村美智子　松野碧泉　鱇忠夫　加藤臥牛　大城容史子　宮澤神竹　服部和代　立石見聲　管白峰　番定静山　小林啓子　森原晋作　永井箕山　富山蘭翠　舘智舟

笹倉柳石　石川羊碩　竹内霍山　大山敦子　畑間青露　田原群蛙　藤本蘇西　杉江周作　伊地美保子　高岡祥鶴　山内紫泉　西山進　大川鳳石　川栄玉峯　谷川松雲　和田恵子　大泉香華　竹中朴　谷啓子　西谷亀石　野田邦子　今井朴仙　川野朱苑　小倉澤陽　岩田耕烟　上田翔雲　團栗利之　飯田通敬　茶本仙華　安田邦石　伏原準朗　小嶋昌秋　山本亮子　松嶋翠邨　真田雅好　吉崎雲堂　山口藤華　西谷桜泉　池田翠苑　宮野宗雄　滝口照影　堀口秀雄　伊田香泉　田中翠景　筧芳桂　高城玲子　安田佳舟　市川桂水　曽我雅峰　宮越素翠　堤浮生　今宮翠輝　池田竹華　榊原悠園

国島康成　松本弘碩　森田時雄　福島次郎　若杉硯水　佐野哲舟

会員

○池谷宝樹　○伊藤嘉信　○小河水雲　○川久保明　○清水信昭　○鈴木玉峰　○月森康生　○土屋功勝　○堂守唯文　○鳴川遼華　青山正人　荒井典恵　荒木彬陽　大島光洋　磯村育治　内木場八夫　井上江洲　小川憲石　井関碧水　石原白蓉　小幡青濤　大井智枝　植林和夫　岡田泰道　小貫剛　天海信子　大塚義春　生嶋晨空　青木雄山　岡田郁夫　粕川真人　小嶋瑞碩　近藤酔念　金内ヨウ子　加藤辰二　小林寅次郎　駒見華山　木村笙山　加藤敦美　葛西克己　川端春峰　桑島龍三　河原静峰　金井明子　樫野美久代　川端隆一郎

木村行石　小林空歩　小林邦夫　小平隆志　鈴木龍蹊　酒向誼桂　杉村ひふみ　滋野草翠　鈴木宏慥　杉木和子　鈴木祐輔　佐藤翠龍　佐藤幸　笹井岳峯　鈴木翠峰　千田元南　鈴木誠三　立石雄二　高木啓志　高橋翠渕　高田博夫　田中良子　田辺清　高橋忠義　田中白瑤　富岡教行　高杉桂華　中園球恵　永田綾子　内藤華泉　内藤正男　長浜英治　長沼梅風　中村紀久　西岡貴美子　中尾恵笙　中島敬次　長谷山墨石　永田乾石　中井榮子　永井守　荻野蒼雲　堀田敬子　福本剛志　舟山和雄　藤崎澄子　藤本忠義　馬場穆風　畑温子　平川法禅　松室絹代　松本倫子　松田仰風　向畑芳翠

森本翠汀　松原凌峰　間宮慎　正木康夫　丸田岳僊　森静二　前田舫厓　宮崎外茂一　眞壁石峰　森井孝昌　森原晋作　三原大　吉原愛璃　山内真波　安井芳泉　吉三友　矢吹一清　山崎隆平　脇田喜久　和田扇舟　渡會俊正　津堅康風　高橋沖玄　中山翔石　永井孜黄

一般

○吉田豊　○三井顔了　○前田秀雄　○伊藤博康　○森清光　○宮坂菰田　○早川昭石　○高橋博　○古田衛　○板屋智子　石崎公朗　大野勝山　國江碧翠　國枝晃治　安喰冬雲　原田泰久　須田桃苑　長谷部石舟　川上嫩碧　山岸英雄　松山嘉津子　神原彌太彦　松本光雄　小竹基彦　吉岡龍生

月例作品出品者 10 月

役員

○早川聴芬　○関踏青　○松本翠女　○藤田孝風　○渡部芳月　高嶋満喜　今村董圃　中林千影　原田恵苑　村田祥鳳　重原祥雲　田原呉山　南輝代　田澤翠雨　遠藤米子人　阿部祥廬　正和杏葉　畠穆風　石原雲木　水巻游光　山崎一雄　高野弘深　木村容庸　得永春水　関野羊越　稲葉竹葉　中野桂鵬

常任委員

○今西九郎　○田中壽江　○青黄彪　○森川恵扇　○田中九成　○武田草露　○丸山蘇碩　○桃睦苑　○太田恵水　○富山希祐　増田繁治　小谷征　各務紅泉　竹内立女　瀧七郎　篠浦錦風　千田耕翠　古瀬章石　荒崎浄仙　久野天山　杉山美華　松田碧草　浅野祥雲　上野鶴羽　寄田龍神　近藤胡蝶　白尾芳雲　吉田鏡水　大田豊　國井无髯　井本敏子　木村誠二　小林尚石　藤縄尚子　福本青桐　矢野亀山　尾白正雄　秋山名華　松田泰軒　樋口桃園　芦野優美子　長谷川拓石　大槻直佑　古野燕安　亀井芝蘭　大橋実秋　桑木利一　小澤博石　三次松雲　伊藤桃山　丸山沙舟　坂崎大雲　橋本碧峰　杉山錬二　奥島岬丘　小泉廣津　水野和香　吉田宗里　劒田白峰　岸村爽風　稲田一穂　谷口彩雪　亀尾伯龍　庭田露舟　坂正歩　河瀬魚仙　宮本瑞邦　浅良朱華　藤原岳風　石亀明峯　川西卯水　瀧上紀翠　城下江曄　倉野看雨　浦本秀洞　岡田桂舟　大庭景雲　葭岡慶石　杉本素月　丸田拓川　内山楽水　多田学友

委員

○吉田融石　○大城容史子　○安田和代　○西口叢映　○武友早知子　○野田邦子　○高松亮子　○森原晋作　○中西一系　○新井碧峰　堀口秀雄　和田恵子　湯浅榮一　原田園代　小堀蒼洋　濱口韶曄　山下直太　青木鐵生　前田正陽　中野桃華　関野山玉陵　永井箕山　松永平峰　南敏子　竹村美智子　谷川松雲　韆忠夫　城島繁実　番定静山　大泉香華　立石見聲　稲葉桂峰　西谷桜泉　岩井映舟　茶本仙華　肥田俊雄　杉原照楓　西谷亀石　筒井耕石　團栗利之　杉江周作　上田翔雲　松本弘碩　山崎芳園　西山進　黒石仁　山内紫泉　高岡祥鶴　小谷敏之　宮野宗雄　鈴木恵草　管白峰　川栄玉峯　吉崎雲堂　音川景香　岡上汀華　曽原希美　今井朴仙　荒川紅絲　稲垣竹扇　田原群蛙　野崎恒夫　畑間青露　市川桂水　今宮翠輝　宮越素翠　笹倉柳石　滝口照影　小西青窓　藤本蘇西　笹倉瑞峰　曽我雅峰　平井清峰　安田邦石　岩田耕烟　筧芳桂　宇於崎碧峯　熊本信男　山口藤華　伊田香泉　石川羊碩　伏原準朗　松本春石　福島次郎　小嶋昌秋　小倉澤陽　伊地美保子　横手幸雄　榊原悠園　堤浮生　大川鳳石　池田翠苑　中西象堂　国島康成　松田高州　加藤臥牛　高城玲子　田上堅　羽田野雪里　佐藤幸　藤井浩　佐野哲舟　北村斗舟　小林啓子　服部和代　田中翠泉　山本亮子　松野碧泉　竹中朴　谷啓子　安田佳舟　岡本裕　富山蘭翠　宮澤神竹

会員

○森静二　○橋本游月　○磯村育治　○矢吹一清　○三原大　○西岡貴美子　○益邑隆　○小河水雲　○鈴木玉峰　○樫野美久代　脇田喜久　内木場八夫　永井守　中尾恵笙　鈴木宏慥　堀田敬子　安井芳泉　高橋沖玄　山内真波　松原凌峰　長谷山墨石　高田博夫　松山嘉津子　葛西克己　酒向誼桂　森井孝昌　高橋忠義　永田乾石　荒木彬陽　田辺清　笹井岳峯　鈴木翠峰　和田扇舟　天海信子　中島敬次　金井明子　眞壁石峰　渡曾俊正　川久保明　宮崎外茂一　藤本忠義　駒見華山　長沼梅風　池谷宝樹　中村紀久　伊藤嘉信　高杉桂華　荒瀬昌子　土屋功勝　杉木和子　堂守唯文　伊井啓　鈴木誠三　小貫剛　桑島龍三　田中良子　川端春峰　河原静峰　鈴木祐輔　生嶋晨空　佐藤翠龍　木村行石　岡田郁夫　吉三友　藤田紅霞　小川憲石　松室絹代　小幡青濤　佐藤直美　刑部玉水　森本翠汀　福本剛志　藤崎澄子　関由紀夫　平川法禅　大塚義春　丸田岳僊　滋野草翠　間宮慎　吉原愛璃　小嶋瑞碩　内匠俊夫　正木康夫　高木啓志　金内ヨウ子　井関碧水　青山雄山　鳴川遼華　中山翔石　大島光洋　松本倫子　近藤酔念　石原白蓉　富岡教行　荒井典恵　井上江洲　荻野蒼雲　高橋裕進　岡田泰道　鈴木龍蹊　清水信昭　中園球恵　畑温子　粕川真人　山崎隆平　福谷華紅　内藤華泉　立石雄二　永田綾子　長浜英治　永井孜黄　前田舫厓　植林和夫　松田仰風　仲豊治　舟山和雄　大井智枝　中井榮子　津堅康風　小林寅次郎　小林邦夫　中嶋秀峰　青山正人　内藤正男　月森康生　田中穂積　高橋翠渕　小林空歩

一般

○石崎公朗　○三井顔了　○小竹基彦　○橘修一　○大野勝山　○高橋博　○川上嫩碧　○長谷部石舟　○早川昭石　○吉田豊　神原彌太彦　松本光雄　原田泰久　安喰冬雲　吉岡龍生　小平隆志　宮坂菰田　伊藤博康　國枝晃治　山岸英雄

月例作品出品者 11 月

役員

○早川聴芬　○関踏青　○田澤翠雨　○南輝代　○松本翠女　山崎一雄　今村董圃　名倉克彦　重原祥雲　稲葉竹葉　田原呉山　木村容庸　高嶋満喜　正和杏葉　高野弘深　中野桂鵬　畠穆風　関野羊越　渡部芳月　水巻游光　原田恵苑　阿部祥廬　遠藤米子人　得永春水　石原雲木　藤田孝風　堤白遊　中林千影

常任委員

○浅野祥雲　○丸山蘇碩　○竹内立女　○福本青桐　○長谷川拓石　○近藤胡蝶　○青黄彪　○白尾芳雲　○杉本素月　○河瀬魚仙　秋山名華　浅良朱華　芦野優美子　荒崎浄仙　石亀明峯　伊藤桃山　稲田一穂　今西九郎　井本敏子　上野鶴羽　上田静雲　内山楽水　浦本秀洞　太田恵水　大田豊　大槻直佑　大庭景雲　大橋実秋　岡田桂舟　小澤博石　尾白正雄　奥島岬丘　各務紅泉　亀井芝蘭　亀尾伯龍　片畑仁美　川西卯水　岸村爽風　木村誠二　國井无髯　久野天山　倉野看雨　桑木利一　小泉廣津　小林尚石　小谷征　坂正歩　坂崎大雲　篠浦錦風　城下江曄　杉山美華　杉山錬二　鈴木城山　多田学友　瀧七郎　瀧上紀翠　武田草露　田中九成　田中壽江　谷口彩雪　千田耕翠　劒田白峰　富山希祐　西口青咲　橋本碧峰　花房浩佳　樋口桃園　藤縄尚子　藤原岳風　古瀬章石　古野燕安　松田泰軒　松田碧草　丸田拓川　丸山沙舟　水野和香　三次松雲　宮井紅舟　宮本瑞邦　桃睦苑　森川恵扇　矢野亀山　山口藤華　葭岡慶石　吉田鏡水　吉田宗里　寄田龍神

委員

○武友早知子　○岡上汀華　○森原晋作　○松野碧泉　○大泉香華　○川栄玉峯　○松永平峰　○若杉硯水　○飯田通敬　○番定静山　畑間青露　稲垣竹扇　岡本碧水　團栗利之　大城容史子　木村真澄　山内紫泉　西口叢映　濱口韶曄　北村斗舟　羽田野雪里　堀口秀雄　野崎恒夫　谷啓子　新井碧峰　笹倉瑞峰　山下直太　熊木信男　杉原照楓　韆忠夫　今井朴仙　藤井浩　田原群蛙　平井涛峰　稲葉桂峰　関野山玉陵　中西一系　立石見聲　岩田耕烟　宮越素翠　滝口照影　永井箕山　吉崎雲堂　宮野宗雄　曽原希美　富山蘭翠　谷川松雲　管白峰　国島康成　春藤ひろみ　高城玲子　伊地美保子　荒川紅絲　西山進　市川桂水　黒石仁　松本弘碩　長谷山墨石　古賀京子　池田翠苑　大川鳳石　中野桃華　竹中朴　吉田融石　笹倉柳石　中石象堂　藤崎澄子　湯浅榮一　松本春石　西谷亀石　原田園代　鈴木恵草　宇於崎碧峯　安田邦郎　服部和代　小倉澤陽　小林啓子　田山堅　真田雅好　高松亮子　松田高州　西谷桜泉　今宮翠輝　加藤臥牛　筒井耕石　野田邦子　竹内霍山　福島次郎　山本亮子　石川羊碩　茶本仙華　安田和代　筧芳桂　宮澤神竹　高岡祥鶴　榊原悠園　小谷敏之　小西青窓　肥田俊雄　田中翠景　伏原準朗　佐藤幸　堤浮生　前田正陽　伊田香泉　小林空歩　曽我雅峰　佐野哲舟　杉江周作

会員

○津堅康風　○鈴木誠三　○宮崎外茂一　○矢吹一清　○三原大　○荒井典恵　○大江啓子　○青木雄山　○中島敬次　○岡田郁夫　森井孝昌　小河水雲　松室絹代　川久保明　松原凌峰　月森康生　安井芳泉　福本剛志　松山嘉津子　大井智枝　清水信昭　小幡青濤　樫野美久代　滋野草翠　永田綾子　桑島龍三　西岡貴美子　永田乾石　木村行石　酒向誼桂　森本翠汀　向畑芳翠　小川憲石　金井明子　眞壁石峰　池谷宝樹　田中良子　内藤正男　堂守唯文　伊藤嘉信　高橋忠義　川端春峰　福谷華紅　境山正甫　森静二　川端隆一郎　佐藤翠龍　仲豊治　佐藤直美　中園球恵　駒見華山　丸田岳僊　鷲見津也子　藤本忠義　長沼梅風　山内真波　金内ヨウ子　刑部玉水　吉原愛璃　内匠俊夫　前田舫厓　田辺清　小嶋瑞碩　青山正人　内藤華泉　森俊吾　内木場八夫　高木啓志　吉三友　鈴木祐輔　脇田喜久　小林寅次郎　前田秀雄　井上江洲　和田扇舟　舟山和雄　笹井岳峯　長浜英治　小林邦夫　畑温子　中村紀久　岡田泰道　富岡教行　天海信子　山崎隆平　高田博夫　石原白蓉　鈴木龍蹊　正木康夫　磯村育治　立石雄二　大垣内悟道　生嶋晨空　永井守　杉木和子　高杉桂華　藤田紅霞　中井榮子　主藤恵水　間宮慎　荒瀬昌子　木村笙山　鳴川遼華　荒木彬陽　中尾恵笙　鈴木宏慥　渡曾俊正　永井孜黄　土屋功勝　伊井啓　田中白瑶　関由紀夫　小貫剛　柴久利江　植林和夫　荻野蒼雲　加藤辰二　平川法禅　大塚義春　松田仰風　鈴木翠峰　高橋裕進　近藤酔念　中山翔石　宮下英世　田中穂積　粕川真人　堀田敬子　鈴木玉峰　松本倫子

一般

○吉岡龍生　○小平隆志　○伊藤博康　○橘修一　○大野勝山　○山岸英雄　○音川景香　○國江碧翠　○宮坂菰田　○石崎公朗　高橋博　小竹基彦　神原彌太彦　須田桃苑　松本光雄　川上嫩碧　三井顔了　吉田豊　板屋智子　安喰冬雲　國枝晃治　原田泰久

月例作品出品者 12 月

役員

○今村董圃　○名倉克彦　○木村容庸　○正和杏葉　○高野弘深　関踏青　得永春水　内田真弓　畠穆風　原田恵苑　田澤翠雨　村田祥鳳　稲葉竹葉　遠藤米子人　中野桂鵬　田原呉山　水巻游光　山崎一雄　高嶋満喜　重原祥雲　渡部芳月　南輝代　堤白遊　石原雲木　早川聴芬　藤田孝風

常任委員

○芦野優美子　○増田繁治　○竹内立女　○坂崎大雲　○亀井芝蘭　○宮井紅舟　○上田静雲　○杉山美華　○田中壽江　○水野和香　杉山錬二　國井无髯　西山進　藤原岳風　森川恵扇　桃睦苑　瀧七郎　坂正歩　大橋実秋　小谷征　秋山名華　吉田鏡水　寄田龍神　各務紅泉　荒崎浄仙　大槻直佑　田中九成　丸山蘇碩　松田碧草　今西九郎　古瀬章石　鈴木城山　高城玲子　池田翠苑　藤縄尚子　古野燕安　白尾芳雲　浦本秀洞　笹倉瑞峰　吉田宗里　関野山玉陵　熊木信男　川西卯水　井本敏子　浅良朱華　福本青桐　木下芳秀　野田邦子　松田泰軒　近藤胡蝶　樋口桃園　橋本碧峰　花房浩佳　長谷川拓石　大田豊　岡田桂舟　岡本碧水　青黄彪　小泉廣津　久野天山　多田学友　城下江曄　亀尾伯龍　河瀬魚仙　岸村爽風　瀧上紀翠　稲田一穂　太田勝昭　丸田拓川　富山希祐　矢野亀山　劒田白峰　尾白正雄　小林尚石　市川桂水　宮本瑞邦　内山楽水　木村誠二　田山堅　石亀明峯　佐野哲舟　大庭景雲　小澤博石　奥島岬丘　千田耕翠　伊藤桃山

委員

○武友早知子　○西口叢映　○管白峰　○松永平峰　○畑間青露　○木村真澄　○濱口韶曄　○服部和代　○永井箕山　○堀口秀雄　安田佳舟　立石見聲　小堀蒼洋　松野碧泉　羽田野雪里　長谷山墨石　稲葉桂峰　高岡祥鶴　山下直太　岡上汀華　小林啓子　森原晋作　湯浅榮一　西谷桜泉　田原群蛙　飯田通敬　杉原照楓　竹中朴　杉江周作　中野桃華　藤本蘇西　福島次郎　山内紫泉　吉崎雲堂　榊原悠園　曽我雅峰　青木鐵生　伊地美保子　黒石仁　伊田香泉　佐藤翠龍　竹内霍山　前田正陽　稲垣竹扇　宮越素翠　国島康成　大城容史子　音川景香　山本亮子　野崎恒夫　鈴木恵草　大山敦子　松本弘碩　藤井浩　谷川松雲　滝口照影　松嶋翠邨　中石象堂　谷啓子　今井朴仙　富山蘭翠　茶本仙華　平井清峰　筒井耕石　和田恵子　中西一系　荒川紅絲　松本春石　宮澤神竹　小西青窓　加藤臥牛　番定静山　小谷敏之　松田高州　小林空歩　岩田耕烟　宇於崎碧峯　田中翠景　川栄玉峯　西谷亀石　筧芳桂　肥田俊雄　今宮翠輝　春藤ひろみ　安西幸恵　韆忠夫　笹倉柳石　團栗利之　小倉澤陽　大泉香華　安田邦石　佐藤幸　北村斗舟　新井碧峰

会員

○柴久利江　○安井芳泉　○宮崎外茂一　○古在小綽　○高橋忠義　○鈴木玉峰　○堀田敬子　○清水信昭　○内藤華泉　○高木啓志　矢吹一清　月森康生　川端春峰　山内真波　荻野蒼雲　伏原準朗　藤崎澄子　伊井啓　森静二　堂守唯文　西岡貴美子　小幡青濤　松原凌峰　大塚義春　川久保明　小河水雲　和田扇舟　大井智枝　小貫剛　樫野美久代　岩井映舟　津堅康風　長浜英治　森本翠汀　丸山沙舟　金内ヨウ子　岡田郁夫　小林邦夫　真田雅好　金井明子　福本剛志　内木場八夫　畑温子　加藤清城　藤田紅霞　丸田岳僊　小嶋瑞碩　森俊吾　川端隆一郎　中園球恵　内藤正男　香川公子　鈴木宏慥　葛西克己　鈴木翠峰　松山嘉津子　佐藤直美　水内創哲　松本倫子　松室絹代　田中穂積　桑島龍三　田辺清　酒向誼桂　青山正人　高橋次男　森井孝昌　森原宏司　渡曾俊正　鈴木誠三　天海信子　高杉桂華　主藤恵水　立石雄二　駒見華山　中島敬次　杉木和子　平川法禅　鷲見津也子　小川憲石　内匠俊夫　高橋裕進　石川羊碩　松田仰風　永井守　村手俊彦　永田乾石　粕川真人　吉三友　馬場穆風　宮下英世　永田綾子　伊藤嘉信　鈴木祐輔　池谷宝樹　田中良子　三次松雲　関由紀夫　山崎隆平　高田博夫　荒井典恵　長沼梅風　木村行石　植林和夫　岡田泰道　中尾恵笙　近藤酔念　間宮慎　中井榮子　土屋功勝　前田舫厓　澁谷蒼江　篠浦錦風　藤本忠義　向畑芳翠　永井孜黄　眞壁石峰　富岡教行　脇田喜久　中村紀久　田中浩子　青木雄山　小林寅次郎　福谷華紅　山口藤華　吉原愛璃　木村笙山　生嶋晨空　井上江洲　大垣内悟道　笹井岳峯　三原大　荒木彬陽　加藤辰二　石原白蓉　鈴木龍蹊　滋野志津子　刑部玉水

一般

○大野勝山　○磯村育治　○國江碧翠　○橘修一　○上野鶴羽　○原田泰久　○石崎公朗　○松本光雄　○高橋博　○神原彌太彦　小竹基彦　國枝晃治　小平隆志　安喰冬雲　早川昭石　吉田豊　山岸英雄　伊藤博康　石場渓州　宮坂菰田　長谷部石舟　須田桃苑　日比畦草

第二十六回日本篆刻展公募出品要項

会　期　平成二十二年五月十八日(火)～二十三日(日)
午前九時半～午後五時(ただし入場は四時半まで)

会　場　大阪市立美術館　地下展覧会室
大阪市天王寺区茶臼山町一-八十二　電話(〇六)六七七一-四八七四

出品資格　年齢十八歳以上

作品規定　篆刻作品に限る。印影のみ、印材は出品しない。
一人一点（一顆を一点とする）

形　式　額装に限る
（額は壁面展示のため必ず吊り金具・紐を取り付けること）

仕上がり　縦一寸三尺（39㎝）×横一尺（30㎝）×厚さ一寸（3㎝）程度

額寸法　※一、額上部に出品票の上部ラベルを貼付すること。
※二、額の前面アクリル板右下隅に、出品票の名札を貼付すること。

出品料　公募五、〇〇〇円
（指定搬出入業者に添えて納入のこと）

鑑　別　鑑別し入選作品を陳列する。

審　査　入選作品は審査し

表　彰　優秀作品には会員推薦賞（会員推挙）を授与する。

審査員　審査委員長　山下方亭
井谷五雲・尾崎蒼石
大村高陵・酒居石荘
多田龍淵・平田蘭石
真鍋井蛙・他協会役員

締　切　二月二十八日（日）
①指定搬入出業者（中津翰林堂・富島運輸）を通じて搬入する場合
出品票・出品料（五、〇〇〇円）と額装仕上がり作品、搬出入手数料（二、〇〇〇円）を添えて中津翰林堂または富島運輸に二月二十八日（日）必着で提出してください。
②指定表具店（後載）を通じて出品する場合
作品に出品票・出品料（五、〇〇〇円）とを添えて、指定表具店に二月二十八日（日）までに提出してください。
※搬出入手数料（二、〇〇〇円）は、中津翰林堂・富島運輸を通じ出品する場合にのみ必要。

搬　入　指定搬出入業者、指定表具店

搬　出　で一括しておこなう。

出　品　公募の出品票、要項は協会事

規定書　務所（後載）へ郵送料（切手

出品票　百円）を添えて請求のこと。
出品票はバーコード処理のため、コピーしての使用は絶対におこなわないでください。

作品集　会員以上の作品集を刊行する。協会事務所へお問い合わせください。

その他
・他の展覧会に出品した作品、規定違反の作品は受付けない。
・作品はつとめて保護するが、不可抗力による損傷についてはその責任を負わない。
・その他展覧会に関することは協会事務所へお問い合わせください。

■本展指定表具店

協和貿易美術部　電話（〇四三）二九八-五三五一
〒二六二-〇〇〇三
千葉市花見川区宇那谷町一五〇三-六

前川静観堂　電話（〇六）六六六一-六八一五
〒五五七-〇〇一三
大阪市西成区天神之森一-三-一九

中津翰林堂　電話（〇六）六二一-七六八二
〒五四二-〇〇八二
大阪市中央区島之内二-七-三一

書遊　電話（〇七四二）二三-五五四七
〒六三〇-八二四三　奈良市今辻子町三七

相澤楽山堂　電話（〇七八）三四一-一四五〇
〒六五〇-〇〇一一
神戸市中央区下山手通八-一五-一二

■指定搬入出業者

富島運輸　電話（〇六）六四五一-〇〇九七
〒五四二-〇〇八二
大阪市福島区一-四-二

中津翰林堂　電話（〇六）六二一-七六八二
〒五四二-〇〇八二
大阪市中央区島之内二-七-三一

授賞式・懇親会

日　時　平成二十二年五月二十三日(日)
十四時三〇分(受付十三時三〇分より)

会　場　ホテル大阪ベイタワー
電話(〇六)六五七七-一一一一

授賞式…四階　金枝
懇親会…四階　ベイタワーホール

各印社活動トピックス

不華篆会習作展XⅦ　デザインとして見る篆刻の展開

十月二日から四日まで伊丹市立工芸センターで開催された。同会場で開催中の伊丹市立工芸センターの企画展示ジュエリー展のテーマに合わせ、本年は、トレースをテーマに会員十六人がオーソドックスな篆刻作品と工芸的な手法を用いた「生活の中の書・篆刻」を標榜する工芸的作品計三十五点を出展した。また、同七日～一二日に丹波市の兵庫県立丹波の森公苑展示ギャラリーで、巡回展として同じ内容で開催された。（内田真弓）

第十二回 齊平展

十月九日から十一日まで大阪市立住まいのミュージアムで開催された。おもに隔年で開催してきた齊平展だが、今回は昨年度に引き続き二年連続の開催、同会場での展示も二回目となる。今回、出品者数は三十一人とやや少なめであった。特に毎回作品がお祭り騒ぎのようだと言われる齊平展にしては、よく言えば比較的静かで落ち着いた作品が多かったように思う。逆に、少し物足りなさを感じている方もおられたのではないだろうか。（松本雅至）

第十八回遠邇篆会篆刻展　特別展示 梅舒適先生 回顧

十一月十日から十五日までクリエート浜松展示室で開催され、約四四五人が来場した。会員二十六人が書や画を交えバラエティに富んだ作品七十点を出展、東海道五十三次の宿場名を分刻し、印と印影を机上展示した。特別展示として、梅舒適先生との思い出の写真と会のために書いてくださった作品を展示した。（竹村美智子）

第十三回蒼文篆会展　蒼文篆会創立二十五周年記念

十一月二十七日から二十九日まで大阪美術倶楽部で開催され、約一千人が来場した。特別展観として中国古代金石原拓本、特別出品として梅舒適先生の作品四点、会員作品九十五点が陳列された。会員は創作作品各一点に、自由作品として水墨画や模刻作品を机上に並べ、広い会場も狭く感じられるほどだった。（尾崎蒼石）

岐篆会研修会を開催

一月十日多治見市山吉製陶所で研修会を開催、会員三十人が参加した。準備された素焼きの皿、碗、筆筒などに絵付けする、文字を書く、刻する者等々作品づくりに挑戦。引き続き総会、懇親会を開催した。岐篆会は、関中印社、好日会、亡羊印会、川平印会、長修篆会で構成。年四回の研修会、視察研修等の活動を展開している。（武井岳峰）

個展「井谷五雲書法篆刻展」開催

井谷五雲副理事長の個展「井谷五雲書法篆刻展」が平成二十二年一月六日から二月十四日まで尼崎市の尼信博物館で開催された。これは尼崎にゆかりのある作家に年頭を飾る作品展をお願いしたいという、尼崎信用金庫からの依頼を受けて開催したものである。

作品はここ数年間の旧作・新作合わせて約二十種。書は篆書・隷書・行草などの大作や長条幅・六屏・四屏・対聯。篆刻は「百美画譜」百印・「戦国策八則」九印。書画篆刻作品には「金陵八景印興」の横巻・博古花卉図四屏など多岐にわたり、たくさんの来場者を圧倒した。（幸森倚虹）

月例作品募集（二〇一〇年）

・一月…富貴
出展【論語】
意味 家が富んで身分が高いこと

・二月…学無止境
出展【明・魏裔介】
意味 学問の道には終わりが無いこと

・三月…随處楽
出展【宋・陸游】
意味 いたるところで楽しむ

・四月…虚室生白
出展【荘子】
意味 がらんとした部屋に日光が射しこんで、自然に明るくなる

・五月…墨趣
出展【元・鄭元祐】
意味 書画への趣味

・六月…執事敬
出展【論語】
意味 仕事を行なうときは慎重にする

・七月…長令宇宙新
出展【唐・杜甫】
意味 永久に天下を清新なものにする政治をしてもらいたいものだ

・八月…守以静
出展【唐・韓愈】
意味 心を守るのに静を以ってすること

・九月…三省
出展【論語】
意味 日に三たび反省すること

・十月…長生安楽
出展【唐・李筌】
意味 長生きでのんびりと楽しむこと

・十一月…祥雲
出展【北周・庾信】
意味 めでたいときにあらわれる雲

・十二月…辛卯
二〇一一年の干支

多数の出品をいただきありがとうございます。出品作品整理の上から次の二点を再度確認ください。

一、協会資格・会員CD（コードナンバー）を必ず記入し空欄にしないこと。（一般公募は資格欄に『一般』を記入）

二、協会資格は本年度中は変わらないこと。

規定どおりでない作品は審査対象になりませんのでくれぐれもご注意ください。

規定と送り先

印の大きさ 一寸以内

締切 各月末日消印有効

用紙 協会印箋または半紙半截（篆社印箋使用可）に左記六点をご記入ください。

①月 ②課題名 ③印社名 ④協会資格（日本篆刻展出品資格） ⑤氏名 ⑥会員コード

（一般の方は『一般』と記入。会員の方で空白の場合、一般となります。ご注意ください。）

送り先
〒五六三―〇〇三二
池田市石橋二丁目二―一〇
牧野ビル二〇三号
日本篆刻家協会　月例作品係 宛

―ホームページを開設―

日本篆刻家協会の情報を会員でタイムリーに共有するため、ホームページを開設しました。

URL http://www.n-tenkoku.jp/

でご覧ください。

取りあえずスタートしましたが、コンテンツの充実はこれからです。特に、文字より画像を多くして見やすいものにと願っておりますので、簡単な説明をつけて「写真」をご提供いただきますようお願いいたします。

―資料提供のお願い―

協会二十五年を機に沿革・記録・写真等を整理のため、会員各位のお手許のメモ・印刷物・写真等資料をお貸しください。

ご提供いただける資料があれば事務所にご連絡ください。お借りした資料はコピーしてお返しします。

―「日篆協活動のしおり（リーフレット）」の活用を―

協会の活動を紹介するリーフレットができました。リーフレットは先に作成した十二ページのパンフレットを簡略化したA４判表裏の一枚ものです。協会の沿革と概要、役員一覧、展覧会、研究会・研修会、出版、印社紹介、会員構成・事務所等協会の概要が掲載されています。篆刻に興味のある方に皆さんから、積極的に宣伝してください。

なお、「リーフレット」の追加が必要な方は協会事務所にご連絡いただければお送りいたします。

―訃報―

日本篆刻家協会常務理事で創象篆会を主宰する玉木水象氏は、昨年十一月二十七日交通事故に遭い入院中であったが、二月十六日逝去された。享年七十八歳。読売書法会幹事、日本書芸院一科審査員を務める。

展覧会の案内と報告

展覧会案内（年の後半は次号に掲載）

▼随風会（山下方亭）
第二五回記念随風會篆刻展
梅舒適先生遺作展（本会蔵）・中国鈕刻大型印材展示
会期　三月二六日～二一日
会場　京都市美術館

▼北枝篆会（北室南苑）（共催）
～人名のルーツを探る～人名の漢字展
会期　三月一八日～二二日
会場　金沢市・北國新聞交流ホール

▼篆靄社（古溝幽畦）
篆靄社「游藝展」
会期　六月二四日～二九日
会場　アートホール神戸（兵庫県学校厚生会館一階）

▼淡味篆会（南岳呆靄）
淡味篆会展二〇一〇
会期　七月五日～一八日
会場　淡路市立東浦サンシャインホールギャラリー

▼一隅会（池田泥異・喜多芳邑・黒田玉洲・南岳呆靄・古溝幽畦）
第一八回一隅会展　淡味篆会展と合同開催
会期　七月五日～一八日
会場　淡路市立東浦サンシャインホールギャラリー

展覧会報告（その他一四頁掲載）

▼清友篆会（坂本舜華）
第二一回清友篆刻展
会期　一〇月一日～四日
会場　芦屋市　俵美術館　ギャラリー俵

▼畦石舎（小朴画）
第二四回畦石舎作品展
会期　一〇月三日～五日
会場　京都市日図デザイン博物館

▼創象篆会（玉木水象）
創象篆会篆刻展
会期　一一月一七日～二三日
会場　高松放送局（ふれあいギャラリー）

協会の行事

平成二二年度第一回理事会・新年会
山下理事長西冷印社名誉理事就任祝賀会
一月一八日（日）大阪錦城閣

第二回理事会・平成二二年度総会・講演会
『漢代の書』（牛丸好一先生）・懇親会
二月一五日（日）グリーンヒルホテル明石

審査準備会・企画委員会
三月二七日（金）大阪市中央会館

第二五回展審査会
三月二八日（土）大阪市中央会館

第二五回展作品搬入陳列
五月一八日（月）大阪市立美術館

第二五回日本篆刻展〈特別展観 - 日中名家刻印〉
五月一九日（火）～二四日（日）大阪市立美術館地下展覧会室

企画委員会
五月二三日（土）ホテル大阪ベイタワー

第二五回日本篆刻展授賞式
創立二五周年記念セレモニー
五月二四日（日）ホテル大阪ベイタワー

第二五回展作品搬出
五月二五日（月）大阪市立美術館

「第一回日本篆刻家協会展」開幕式
六月二七日（土）古河市立篆刻美術館

地方展「第一回日本篆刻家協会展」
六月二七日（土）～七月二三日（水）古河市立篆刻美術館

企画委員会
七月四日（土）大阪錦城閣

第二回中央研究会
八月八日（土）～一〇日（月）シーサイドホテル舞子ビラ神戸

創立二五周年記念特別講演会
『説文解字研究の新展開』（島根大学教授福田哲之先生）
八月九日（日）シーサイドホテル舞子ビラ神戸

企画委員会
九月五日（土）大阪錦城閣

海外交流
中国芸術院篆刻芸術院との交流展「中日篆刻芸術展」
共催北京市恭王府安善堂
訪中団派遣
一〇月二八日（水）～一一月一日（日）北京・河北省承德

企画委員会
一一月一四日（土）大阪錦城閣

常務理事会
一一月二八日（土）事務所

平成二二年度第二回理事会・新年会
一月一七日（日）大阪錦城閣

予定

第二回理事会・平成二三年度総会・講演会
『笑いを刻む落語の話し』（林家染二先生）・懇親会
二月一四日（日）ホテル大阪ベイタワー

審査準備会
三月二七日（土）大阪市中央会館

第二六回展審査会
三月二八日（日）大阪市中央会館

第二六回展作品搬入陳列
五月一七日（月）大阪市立美術館

第二六回日本篆刻展
〈特別展観 - 丁家秘蔵品〉
五月一八日（火）～二三日（日）大阪市立美術館地下展覧会室

第二六回日本篆刻展授賞式
五月二三日（日）ホテル大阪ベイタワー

第二六回展作品搬出
五月二四日（月）大阪市立美術館

地方展「第二回日本篆刻家協会役員展」
六月二六日（土）～八月二六日（木）古河市立篆刻美術館

第三回中央研究会
八月二二日（土）～二三日（月）
シーサイドホテル舞子ビラ神戸

海外交流

常務理事会
二月二七日（土）事務所

編集後記

☆新年会に先立つ年初の理事会から、山下理事長体制の二期目がスタート。それを機に業務分担の組み替えがあり、会報部の担当者も一部変更があった。しかし会報部の仕事自体に大きな変更はないはずである。会報を発行することの意味を高めていくための変化・改善は常に必要ではあるのだが。

☆「日本篆刻展」出品を除けば、会報に掲載される多様な協会行事に、会員の大半が参加するなどということは実はありえない。コンスタントに参加できる人は限られている。だからこそ、様々な事情で大きな行事に参加できない会員の方々に、会員としての意識・自覚を持っていただくこと、協会を我がことと感じていただくことが大切なのだ。それなくして協会全体の本質的な充実はありえない。そのために役立つ会報を作りたい。私たちはそう願っている。（榊原）

編集：会報部
酒居石荘　榊原晴夫　中村葉舟
木村容庸　内田真弓

お気づきのこと、ご意見など事務所までお寄せください。
FAX: 072-760-3853
MAIL: info@n-tenkoku.jp